



## 2024年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月12日

上場会社名 株式会社トリプルアイズ 上場取引所 東  
コード番号 5026 URL <https://www.3-ize.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 山田 雄一郎  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 近藤 一寛 (TEL) 03-3526-2201  
四半期報告書提出予定日 2024年7月12日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト・個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年8月期第3四半期の連結業績(2023年9月1日~2024年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第3四半期	3,033	74.8	19	—	49	—	42	—
2023年8月期第3四半期	1,735	△5.7	△97	—	△95	—	△468	—

(注) 包括利益 2024年8月期第3四半期 42百万円( -%) 2023年8月期第3四半期 △468百万円( -%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年8月期第3四半期	円 銭 5.73	円 銭 5.63
2023年8月期第3四半期	△67.48	—

(注) 2023年8月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年8月期第3四半期	百万円 4,307	百万円 682	% 15.8
2023年8月期	2,302	332	14.4

(参考) 自己資本 2024年8月期第3四半期 682百万円 2023年8月期 332百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年8月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2024年8月期	—	0.00	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,341	85.0	3	—	21	—	5	—	0.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 株式会社ゼロフィールド、除外 -社

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲の重要な変更)」をご参照ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 有  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年8月期3Q	7,420,500株	2023年8月期	6,977,000株
② 期末自己株式数	2024年8月期3Q	-株	2023年8月期	-株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年8月期3Q	7,341,588株	2023年8月期3Q	6,949,079株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲の重要な変更)	9
(会計方針の変更)	9
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済の状況は、個人消費が低迷したことに加えて、円安に伴う原材料価格の高止まりなどコスト負担の増加もあり、景況感は後退しております。その一方で、雇用の改善や賃金の増加が見られ、企業部門は利益の増加が続き、インバウンド需要も順調に回復している模様です。こうしたなかで、各企業では中長期視点から、特にAIを中心としたデジタル投資への意欲が増している状況となっております。

当社グループの属する業界においては、2010年代後半から活発化していた各企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)関連の投資が継続して増加の傾向にあり、特にソフトウェアの分野において顕著であります。これまでDXが進んでいなかった業種、業界からも生成AIに対する関心は高く、その導入はより広がるものと見込んでおります。世界経済を牽引する技術として注目を浴びる生成AIですが、そのインフラであるGPUサーバーに対する需要も世界的に高まっている状況です。

そのような中、当社グループは、「テクノロジーに想像力を載せる」という経営理念の下、人にやさしいICTサービスの提供を目指し、当社グループ独自のテクノロジーで新たな時代への橋渡しとなるイノベーションを追求しております。GPU/データセンターに関する事業を行う子会社・株式会社ゼロフィールドとの事業シナジーを活かし、生成AI時代におけるAI開発力とコンピューティングパワーを併せもつ唯一無二のAIベンチャーとして、事業を推進してまいります。

当第3四半期連結累計期間においては、各企業のDXへの大規模な投資が加速する概況に照準を合わせ営業活動を行いました。首都圏や東海地区の展示会への出展やウェビナーを通じて、AI導入をゼロからサポートする月額制のサービス「AIラボ」を積極的に展開し、これまでDXで出遅れていた建設・製造・飲食業界を中心に受注が着実に進んでおり、今後の大きな収益源となることを見込んでおります。また、請負案件においても、当社AI技術へのニーズは高く、画像分析や需要予測といったAI開発では、当該期間において大型案件の受注や問い合わせが増えているのが特徴です。

AIZE関連では、4月にアルコール検知AIクラウドシステムである「AIZE Breath」と、ビジネスコミュニケーションツールを提供するLINE WORKSとの連携もスタートいたしました。同月には大規模自治体では日本初の試みとして、世田谷区において顔認証による勤怠管理にAIZEが採用されることとなりました。従前から勤怠システムサービスを展開する企業と連携を図ってきた効果が現れ、AIZEプロダクトの累計ユーザー数が10万IDを突破いたしました。

また、AI人材の社内育成のための通信教育プログラム「AIビジネス実践塾・AT20」が経済産業省が定める「Reスキル講座」に認定されることでより広い客層のニーズに対応できるようになりました。併せて新たに生成AI時代に向けた教育コンテンツとして「ChatGPT業務効率化実践講座」のサービスをスタートいたしました。

子会社である株式会社ゼロフィールドは、2024年1月のビットコインの現物ETF(上場投資信託)を米国証券取引委員会が承認するという追い風を受け、業績は好調に推移しました。当第3四半期連結累計期間においては、マイニング需要とAI開発の加速を視野に入れ、米ワシントン州と新潟でデータセンターを増設・開設しております。

さらに新規事業として、当社と共同でオンプレミスで利用できるAIサービスの開発を進めております。クラウドサービス上に情報保存することにリスクを感じている企業や公的セクターに対して、機密データをローカルで処理し管理するシステムを提供しております。併せて、当社従来のクラウドプラットフォームを活用することにより柔軟性の高いハイブリッドクラウドシステムも提供しております。当社のAIシステムと株式会社ゼロフィールドのGPUサーバーを併用することで、さらに競争優位性のあるサービスを実現していきます。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は3,033,638千円(前年同期比74.8%増)、営業利益は19,714千円(前年同期は営業損失97,606千円)、経常利益は49,416千円(前年同期は経常損失95,092千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は42,071千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失468,936千円)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より「AIソリューション事業」、「GPUサーバー事業」の2事業区分に、報告セグメントの利益の開示を四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失から経常利益又は経常損失にそれぞれ変更し、当社グループの経営状況をより適切に表示することとしています。

また、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

#### (AIソリューション事業)

当セグメントにおきましては、AI、IoT、DXに係る開発、WEBシステム開発やAIZE関連請負開発に関する売上高が堅調に推移しました。その結果、当第3四半期連結累計期間において、売上高は2,019,778千円(前年同期比16.4%増)となり、セグメント利益は38,678千円(前年同期はセグメント損失95,092千円)となりました。

また、当セグメントのうち、SI部門における経営上の指標であるエンジニア単価については617千円(前連結会計年度比1.2%増)、エンジニア人数については2,300人月(前連結会計年度比81.6%の進捗)、AIZE部門における経営上の指標である拠点ID数は8,701件(前連結会計年度末比167.7%増)となりました。

#### (GPUサーバー事業)

当セグメントは、株式会社ゼロフィールドの子会社化によりGPUマシン販売・保守管理を軸とした事業として、第1四半期連結会計期間より開始いたしました。

マシン販売・保守管理に関する売上高が想定通り推移した結果、当第3四半期連結累計期間において、売上高は1,013,860千円となり、セグメント利益は10,740千円となりました。また、当セグメントにおけるKPIである、マシン販売台数の実績は390台となりました。なお、当セグメントについては前第3四半期連結累計期間における実績がないため、比較分析は行っておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産の合計は、4,307,781千円と前連結会計年度末と比較して2,005,134千円増加しております。

流動資産は2,919,322千円(前期末比766,631千円増)となり、主な要因としては、商品及び製品が461,532千円増加したことです。

固定資産は1,388,459千円(前期末比1,238,502千円増)となり、主な要因としては、のれんが560,999千円、顧客関連資産が276,681千円、建物及び構築物が233,178千円それぞれ増加したことです。

当第3四半期連結会計期間末における負債の合計は、3,625,040千円と前連結会計年度末と比較して1,654,539千円増加しております。

流動負債は2,148,011千円(前期末比1,301,292千円増)となり、主な要因としては、契約負債が700,355千円、短期借入金が253,597千円それぞれ増加したことです。

固定負債は1,477,028千円(前期末比353,246千円増)となり、主な要因としては、長期借入金が191,014千円、繰延税金負債が115,728千円それぞれ増加したことです。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、682,740千円と前連結会計年度末と比較して350,595千円増加しております。主な要因としては、資本剰余金が974,173千円増加したことおよび資本金が665,906千円減少したことです。これらは、第三者割当増資等により資本金及び資本剰余金がそれぞれ154,133千円増加したため、また減資により資本金を資本剰余金に820,039千円振り替えたため等です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績等に基づき検討した結果、2024年8月期の連結業績予想を修正致しました。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、今後の見通しにつきましては、発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。連結業績予想につきましては、業績予想の修正が必要になった場合は、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,754,566	1,788,479
売掛金	273,850	295,319
契約資産	51,545	113,731
商品及び製品	21,526	483,058
原材料及び貯蔵品	142	12,192
その他	53,687	230,727
貸倒引当金	△2,627	△4,186
流動資産合計	2,152,690	2,919,322
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,643	241,821
車両運搬具（純額）	0	0
その他（純額）	6,981	12,831
建設仮勘定	-	21,517
有形固定資産合計	15,624	276,170
無形固定資産		
のれん	2,559	563,559
ソフトウェア	9,800	7,441
顧客関連資産	-	276,681
その他	1,788	1,564
無形固定資産合計	14,148	849,246
投資その他の資産		
投資有価証券	92,880	40,980
長期貸付金	118	92,557
敷金及び保証金	18,910	90,902
その他	8,275	38,601
投資その他の資産合計	120,183	263,042
固定資産合計	149,956	1,388,459
資産合計	2,302,647	4,307,781

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	83,174	88,286
1年内償還予定の社債	-	10,000
短期借入金	240,000	493,597
1年内返済予定の長期借入金	240,442	353,868
未払金	118,367	134,130
未払法人税等	7,990	14,720
前受金	2,077	155,245
契約負債	17,718	718,074
賞与引当金	24,168	29,991
その他	112,780	150,096
流動負債合計	846,719	2,148,011
固定負債		
社債	-	40,000
長期借入金	1,123,771	1,314,786
繰延税金負債	10	115,739
資産除去債務	-	6,502
固定負債合計	1,123,782	1,477,028
負債合計	1,970,501	3,625,040
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	720,075	54,169
資本剰余金	670,075	1,644,248
利益剰余金	△1,058,004	△1,015,933
株主資本合計	332,145	682,483
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	256
その他の包括利益累計額合計	-	256
純資産合計	332,145	682,740
負債純資産合計	2,302,647	4,307,781

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
売上高	1,735,536	3,033,638
売上原価	1,273,131	2,004,677
売上総利益	462,404	1,028,961
販売費及び一般管理費	560,011	1,009,246
営業利益又は営業損失(△)	△97,606	19,714
営業外収益		
受取利息	14	1,481
為替差益	-	3,026
デリバティブ評価益	-	1,884
暗号資産評価益	-	16,996
助成金収入	2,750	4,231
補助金収入	-	20,000
その他	1,085	1,581
営業外収益合計	3,850	49,202
営業外費用		
支払利息	1,336	16,061
社債発行費	-	1,129
株式交付費	-	1,322
支払手数料	-	123
その他	-	863
営業外費用合計	1,336	19,500
経常利益又は経常損失(△)	△95,092	49,416
特別利益		
固定資産売却益	-	1,175
特別利益合計	-	1,175
特別損失		
固定資産除却損	274	6,040
減損損失	324,873	-
ソフトウェア評価損	26,255	-
投資有価証券評価損	-	8,847
特別損失合計	351,403	14,888
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△446,496	35,702
法人税、住民税及び事業税	4,700	15,317
法人税等調整額	17,739	△20,202
過年度法人税等	-	△1,483
法人税等合計	22,439	△6,368
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△468,936	42,071
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△468,936	42,071

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△468,936	42,071
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	256
その他の包括利益合計	-	256
四半期包括利益	△468,936	42,327
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△468,936	42,327
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年9月29日付けで、PROCESS UNIT FUND 投資事業有限責任組合から第三者割当増資の払込みを受けたため、資本金及び資本剰余金がそれぞれ149,974千円増加しております。

加えて、2023年11月29日開催の第15回定時株主総会において資本金の額の減少を行うことを決議し、2024年1月5日付で資本金を820,039千円減少し、資本剰余金に振り替えております。

また、新株予約権の行使により、当第3四半期連結累計期間において資本金が4,159千円、資本剰余金が4,159千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間の末日において資本金が54,169千円、資本剰余金が1,644,248千円となっております。

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間において、株式会社ゼロフィールドの全株式を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。

なお、当該連結の範囲の変更は、当第3四半期連結累計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与えることが見込まれます。影響の概要は、連結貸借対照表の資産合計及び負債合計の増加、連結損益計算書の売上高等の増加になると考えられます。

(会計方針の変更)

当第3四半期連結累計期間  
(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

(棚卸資産の評価方法の変更)

当社は棚卸資産のうち商品及び製品の評価方法について、従来、個別法による原価法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間の期首より、総平均法による原価法へ変更しております。

この評価方法の変更は、主に取り扱う商品及び製品の変更に合わせたものであります。従来は、案件毎に個別に商品を仕入れ、管理を行っておりましたが、第1四半期連結会計期間より、同一規格の商品及び製品を販売する案件が大多数を占めるようになったことから、期間損益計算及び棚卸資産の評価額の計算をより適正に行うことを目的に棚卸資産の評価方法の変更を行うものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

## (重要な後発事象)

## (取得による企業結合)

当社は、2024年5月27日開催の取締役会の決議に基づき、井口 邦氏及び井口 恵氏との間で、同日付で株式会社BEXの株式譲渡契約を締結し、2024年7月1日付で株式を取得し、同社を完全子会社化しました。

## (1) 企業結合の概要

## ① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社BEX

事業の内容 自動車分野における機械設計開発事業、ITシステムの設計開発事業

## ② 企業結合を行った主な理由

株式会社BEXは、自動車分野における機械設計開発事業、ITシステムの設計開発事業を展開しており、トヨタ自動車グループとの安定的な取引基盤を有していることに加え、同社の社名の由来でもあるお客様にとっての「Best EXpert」となるべく、エンジニアの教育制度を充実するなど、社員の成長を第一に掲げた取り組みを行ってきた結果、設立以来、安定的に成長を続けてきた企業であります。

設計業務の標準化やルーチンタスクの自動化等のAIによる業務支援、ナレッジデータ学習による専門タスクのAI化や設計の自動生成等のAIによる業務代替、生産工程のDX化等のAIによる業務拡張によるAI自動車設計領域におけるAIの活用が見込まれることに加え、当社グループ全体として顧客層の拡大や多様なキャリアの提示によるエンジニア採用力の強化等、事業上のシナジー効果による更なる成長が見込まれることから、子会社化いたしました。

## ③ 企業結合日

2024年7月1日

## ④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

## ⑤ 結合後企業の名称

結合後企業の名称に変更はありません。

## ⑥ 取得した議決権比率

企業結合日に取得した議決権比率100%

## ⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

## (2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得に伴い支出した現金及び預金	646百万円
取得原価	646百万円

## (3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

デューデリジェンス費用等 7百万円

## (4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

## (5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

## (資金の借入)

当社は、2024年6月21日開催の取締役会の決議に基づき「2 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」の(重要な後発事象)(取得による企業結合)に記載の株式会社BEXの株式取得のため、2024年7月1日に借入を実行しました。借入の概要は以下のとおりです。

(1)借入先	株式会社みずほ銀行
(2)借入金額	200,000千円
(3)借入金利	基準金利 + スプレッド
(4)借入実行日	2024年7月1日
(5)借入期間	60ヵ月
(6)担保等の有無	無担保・無保証